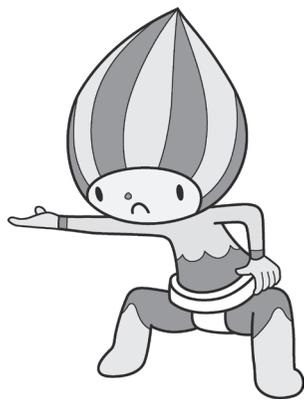
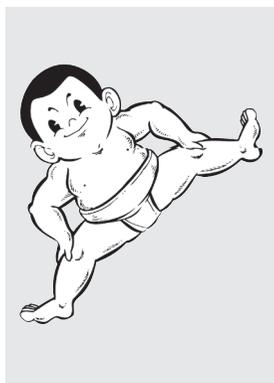


岐阜県郡上市における 中学校武道必修化に向けた取組

郡上市教育委員会

郡上は、明治時代から相撲が盛んでした。当時の写真をみると、見事な化粧まわしを締めた草相撲の力士たちが腕を組んで居並んでいます。さらに、昭和40年（1965）には、郡上八幡で国体の相撲競技が開催されました。天皇、皇后両陛下をお迎えしての国体開催により、伝統はいつそう確かなものとなりました。そして、折しも武道必修化元年の今年、47年ぶりに国体の相撲競技が本市で開催されます。ぎふ清流国体を契機として、郡上に新たな相撲の伝統文化を築いていくことが私たちの願いです。



ぎふ清流国体マスコットキャラクター「ミナモ」

1 生活文化としての郡上の相撲

岐阜県郡上市は、テレビドラマや旅番組などにもたびたび登場します。ご覧になられたことがあるでしょうか。清流長良川が南北に

貫き、天然鮎や郡上おどり、スキ1といった観光、またB級グルメの奥美濃カレーやけいちゃんなどでも有名です。

しかし、私たちが最も誇りとするのは、その歴史であり伝統文化です。5万人弱の小さな市ですが、古今伝授に由来する詩歌への愛着、円空に関する数々の伝説、隆盛を誇った白山信仰に関わる優れた文化、江戸の社会を描るがした宝暦郡上一揆など、先人たちは、不屈の精神と支え合いの心で郷土

を切り拓き、豊かな伝統文化を育んできました。

相撲も先人たちに愛され、私たちの生活に密着した伝統文化となりました。ぎふ清流国体で相撲競技の開催地に選ばれたのも、その証しであると考えています。ここで、今、相撲に打ち込んでいる中学2年生の体験談を紹介します。

小学生のときから、相撲教室に通っていました。練習は週に1回でしたが、学年が上



美濃地区中学生相撲大会でぶつかり合う中学生たち



第2回全日本女子相撲郡上大会の開会式

がるにつれて厳しくなり、ときには嫌になって逃げ出したこともありました。しかし、ある日、突然、「今日で相撲教室は終わらだよ」と言われました。次の週、これまでは嫌でたまらなかつた木曜日が来ましたが、何か変な気持ちになりました。「後悔」のような気持ちです。そして、なぜか急に相撲がしたくなり、練習がたつて逃げ出してしまったと

き、相撲教室の先生が探してくれたことを、今も思い出します。（2年男子）

子供たちは、相撲を通して、体力や技能だけではなく、精神面で

もたくましく、そして心豊かに成長しています。この生徒も、貴重な体験を通して、確かに成長しています。相撲は、郡上では、欠くことのできない大切な教育の一環として位置づけられています。

2 私たちがめざす「凌霜の心」

私たちは、郡上の先人たちが求めてきた生き方を「凌霜の心」とよび、これを求め続けることを市の教育理念として掲げています。冬の霜を凌ぎ、凜とした花を咲かせる菊のように、堅固な意志をもって苦難を乗り越えることを象徴する言葉です。幕末の戊辰戦争において、信念を貫いて戦った郡上藩「凌霜隊」に由来しています。

中学生たちが相撲を通して、技能や体力だけではなく、自らを心身ともに鍛えようとする「なにくそ」の心と、感謝や相手を重んずる「おかげさま」の心を伝統として学び取ることを願っています。

次に、中学の3年間、相撲に打ち込んできた生徒の思いを紹介します。

私たちは、「凌霜の心」を子供たちにもわかりやすいように、「なにくそ」と「おかげさま」という、郡上の人々が昔から大切にしていた言葉で伝えようとしています。

僕が大切にしているのは、相手を尊重する礼儀や感謝の心です。稽古をつけてくれる先生方や先輩方はもちろん、疲れているのにいつも送

迎してくれる保護者会の皆さんには、本当に感謝しています。昨年、全国大会に出場でき、自分の相撲にも自信がもてるようになりました。中学校生活最後の年の目標は、支えてくれた人たちへの感謝の思いを胸に、全国大会で一つでも多く勝つことです。
(3年男子)

3 伝統に裏打ちされた相撲の指導

昭和40年(1965)に開催された岐阜国体の相撲競技を節としながら、競技としての相撲が郡上市内(当時)の中学校にもいっそう根付いていきました。ここで、現在の市内中学校8校における相撲の指導(男子)について、その概要をまとめてみます。

私が指導されてきました。相撲指導のあり方については、年に数回の市教育研究会体育部会等を通して、体育科の教師どうしで指導方法が交流されたり、ベテランから若手へと指導のポイントが継承されたりしてきました。今年度も第1回目の体育部会において、相撲を指導する際の安全上の配慮事項について意見交流する予定です。

また、郡上においては、相撲連盟や高校の相撲部担当の方々の協力が大きな支えとなっている点も見逃せません。定期的な取組はありませんが、大会の際などに中学校の体育科教師に対し、指導について積極的に助言をしてくれます。これも郡上が培ってきた伝統の強みだと思えます。

次に、各中学校で指導の重点としたり、特に配慮したりしていることをまとめて記します。

○技術面

- ・押し、寄りを中心とした基本動作の定着を図るため、導入段階ではまわしを取らない押し相撲での試合を行う。
- ・学年ごとに指導する技の重点化を図り、発展性を明確にした指導計画を立案する。
- ・見取り稽古を重視し、仲間の良さを学び合う指導を大切にす

No.	学校	男子生徒数	指導時数(学年)			施設・用具等
			1年	2年	3年	
1	A校	126	7	7	7	土俵・櫓・まわし・指導用DVD等
2	B校	36	10	10	10	土俵・まわし
3	C校	112	12	12	12	土俵・櫓・まわし
4	D校	196	14	12	14	土俵・櫓・まわし・相撲マット
5	E校	57	8	8	8	土俵・まわし・相撲大会ビデオ等
6	F校	64	12	12	12	土俵・まわし
7	G校	28	9	9	9	土俵・まわし
8	H校	39	10	10	10	土俵・まわし・相撲マット



相撲大会に臨む中学生たち

相撲の所作や作法について、そこに込められた意味を丁寧に指導し、互いを尊重し合うための具体的な言動のあり方について

4 明日に「ぎふ清流国体」

先生に第2回全日本女子相撲郡上大会への出場を勧められたとき、「まわし」に一番抵抗がありました。で

も、知らないうちに自分たちでまわしを付けて、楽しく練習するようになっていきました。中でも、力ではかなわな

いて繰り返し身に付けさせる。

○安全面

- ・股わりやしこ、受け身の練習を繰り返す。
- ・安易な投げや足取り、掛けは行わない。
- ・よくあるけがの防止について具体的に指導する。
- ・毎時間の授業の初めに、態度面や安全面について、体育係を中心として生徒たち自身にも点検させる。

当り前のことを当り前にできるように、教師自身や上級生の姿をモデルとして提示し、「見習う」ことを重視した指導が展開されています。

い相手に、覚えた技で勝てた喜びは大きなものでした。大会では、まさかの3位で大感激でした。とても貴重な経験でした。相撲をやって良かった。(昨年度3年女子)

やってみないとわからない相撲の良さがあります。そして、本物に接しないと伝わらない魅力があ

ります。ぎふ清流国体は、その絶好の機会です。

9月30日～10月2日、郡上市合併記念公園特設相撲場で行われる相撲競技を、市内の小・中学生が観戦します。この好機を、ぜひ相撲の学習にも反映させていきたいと考えています。そして、この子供たちが次の世代に伝統をつないでくれることを期待しています。



ぎふ清流国体の相撲競技ポスター(高校生の作品)